

学校通信

## 強い網

2017年6/7月号

新版 第86号

編集

駿台甲府高等学校

駿台甲府中学校

駿台甲府小学校

## 時代を繋ぐ

駿台甲府中学・高校校長 八田 政久

本年度が始まり三か月余りが過ぎました。小学校においては運動会が盛大に行われ、中学校では、駿中祭と甲府市の総合体育大会が行われ、上級生を中心に活躍してくれました。また、高等学校では普通科・美術デザイン科共にクオリティの高い学園祭が生徒たちの手で行われました。各校とも大勢の保護者の方に御来場頂き、感謝申し上げます。毎年思う事ですが、児童・生徒たちのパワーには感心させられます。中学一年生から六年年の様々なパフォーマンスを見せてもらいました。仲間たちと一つの作品を作り上げていく過程にはいくつもの壁があったことと思います。全校生徒が校訓でもありますチャレンジングスピリットをもって取り組んだ作品の完成度には目を見張るものがありました。この良き伝統を繋いでいってほしいと切に願っています。

私は現在の職責となり三年目を迎えました。児童・生徒たちのために何ができるのか、日々、自問自答しています。ここ数か月の間、偶然にも、四半

世紀前の教育に関する様々な文献を目にする機会がありました。その時代から知育・徳育・体育のバランスや、近年の高大接続システム会議などで取り上げられている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の学力三要素なども表現には若干の違いがありますが、大きな課題として取り上げられていました。平成初期のある教師が「教育は文字通り、教え、育てる営みである。私たちは、とかく教えることのみに熱心になり、育てることをおろそかにしてこなかっただろうか。」と自問自答していました。私は、本年度の学校パンフレットに「本校は教える育む教育から、共に育んでいく共育にシフトしていきます。」と書かせて頂いたことを思い出して、はつとさせられました。根本的な教育には時間がかかりますし、「共育」には、なおのこと時間が必要です。これからの教育改革で最も大切なことは、主体的に学ぶモチベーションではないでしょうか。自ら考えて、自ら学ぶ姿勢を身に付けることが、社会に通用する力となるのです。四半世紀以上前から生涯学習の大切さが叫ばれていたことを思い出させてくれました。その教師は最後に以下のように結んでいます。「私たちは、目についたもの、

形に表れたものだけを評価してきはしなかっただろうか。教師の内にもないものが、教えられ、子供たちに育てられるはずがない。徳育・心育の中に『情育』という概念が取り入れられてもよいのではないかと思う。」

## 塩部キャンパス改修事業進捗状況

前回、本誌紙面で紹介しました塩部キャンパス中学棟建設工事について6月末の様子を写真で掲載させて頂きました。

現在、文化財遺跡調査が最終段階に入っており、7月6・7日に高校生の希望者に発掘体験を行いました。また、7月22日10時から甲府市教育委員会主催で地域の方に現地見学会を実施し

ます。ご希望がありましたら是非参加して下さい。周辺校地の整備として下水道移設工事を行っております。旧校地西側にありました公道地下の下水道を新校地西側に移設しております。地下15mを掘り進めていく大規模工事となっております。

中学の移転に伴って、塩部キャンパスの整備を進めております。バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を図るため、上下履きの区分を廃止しました。また、防犯上の観点から正門の閉扉を実施しております。夏季休業中には、西館1階図書館の拡充工事を行い、中高で兼用できる規模に拡大します。本事業へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



# コース・フィールド

高校普通科 堀江 健太郎

本校は本年度よりコース・フィールド制を導入しました。このコース・フィールド制とはいったい何なのか、なぜ始めるのか。ここでみなさんにご紹介したいと思います。

## 今、全ての生徒に求められる力

二〇二〇年、大学入試改革によりセンター試験が廃止され、新たな学力観に基づく新テストが開始されます。今から三年後、ということは、実際にこの新テストを受けることになるのは現在の中学三年生からです。しかし、この新テストを受けない現在の高校生にとってもこれは関係のない話ではありません。全ての児童生徒達にとって重要な問題です。なぜでしょうか。

一つには、この新テストが評価しようとしている生徒の「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「主体性・多様性・協働性」はすでに現在の入試の状況においてもAO入試、推薦入試という形で始まっており、その割合が入試全体の中で増加していることが挙げられるでしょう。東京大学さえも推薦入試を始めたことはご存じの方も多いことと思います。

そしてもつと根本的な理由もあります。それは、大学入試に留まらず、この学力三要素と呼ばれる力がこれからの時代を生きていくために必要不可欠だということです。むしろ、これから

の時代を生きるために本当に必要な力を、大学入試がきちんと測れるようにしようとして変化が起きているというのが正しい言い方でしょう。では、この学力三要素を育むためにはどうしたらいいのでしょうか。本校の一つの答えがコース・フィールド制です。

## モチベーションを生む

学力三要素を育むために必要な事、それは生徒の興味・関心を引き上げる事です。自分の好奇心が掻き立てられる事以上に、主体的に、知識を得たい、深く考えたい、それを人に伝えたい、行動したい、というモチベーションが生まれてくるものではありません。しかし、自分が何に興味があるのかもまだわからない、あるいは興味はあるがその先に何があるのかわからないので次の一歩をどうしたらいいか迷っているという生徒が大半だと思います。

本校は、まず生徒に自分自身の興味・関心に気づいてもらうことから始めます。私達は、学びを大きく四つの領域（フィールド）に分けて捉えました。グローバルゼーション・ヒューマニティーズ・ナチュラサイエンス・メディカルサイエンスの四つです。ここでそれぞれの内容を見てみましょう。

### 【グローバルゼーション】

地球規模で変化する社会を国際的な視点で探究する。

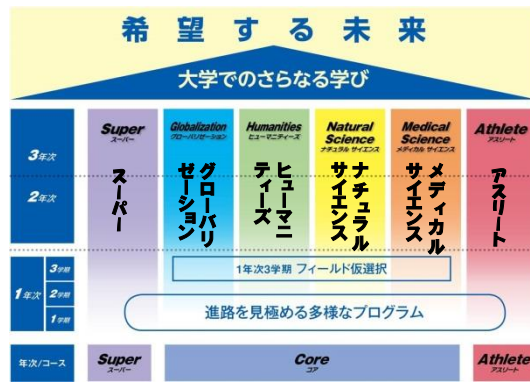
### 【ヒューマニティーズ】

人間とは、社会とは何なのか、人文科学の領域を探究する。

【ナチュラサイエンス】  
自然法則はなぜ、どのようにできていくのか、自然科学の領域を探究する。

【メディカルサイエンス】  
病はなぜ生まれるのか、どうやって人はそれを克服するのか、医療を探究する。

高校一年で、生徒はまず体験的に全てのフィールドに触れます。そこで、生徒達は自分自身のまだ気づいていなかった興味・関心を知り、深めていきたい学びの領域を模索します。



## 目標に合わせた3つのコース

自分の探究したい世界を持って、生徒は目標に合わせたそれぞれのコースに分かれていきます。高一の3学期に仮登録をし、じっくり判断した上で本登録します。コースは三種類、コアコース・スーパーコース・アスリートコースです。高二から、それぞれのコースで学校のある土曜日の二時間を使っ

てそれぞれに特徴的な学びを実践していきます。

### 【コアコース】

学びのコア（核）を身につけて、国立大学及び難関私立大を目指します。生徒は四つのフィールドから一つを選択し、土曜日の二時間を使って各フィールドに分かれ、それぞれの興味関心に基づいて探究的な学習を進めます。グループワークやディスカッションなどを通じて学びを深めていきます。

### 【スーパーコース】

このコースは東京大学をはじめとする世界トップ一〇〇大学、最難関国立大学志望者、国立大学医学部医学科志望者でクラスを構成します。土曜日の時間も含めてコース独自のカリキュラムに沿ってハイレベルな学習を進め、さらに「ひとつの答え」にとらわれず「自分の答え」を大切にできるような探究型の学習も行われます。

### 【アスリートコース】

このコースは、将来高いレベルや高いステージでスポーツ選手として活躍したい生徒や、健康科学に携わりたいという生徒の探究に力を入れることを主眼とします。また、社会におけるスポーツの在り方や東京オリンピックへの積極的な関わりも追求していきます。

自らの興味・関心からスタートすることで主体的に学びを深め、この高校三年間で、私は何を考え、何をしたいのか、胸を張って表現できる生徒達を育てる。新しい受験の流れの中でも駿台は今まで以上に生徒をサポートします。

授業中継

小

小学校 山下 潤



二〇〇八年、当時の首相が教育再生懇談会の中で、「ケータイやインターネットは教育上よくない、子どもに持たせるな」と言っていた時代から、今はプログラミングが欠かせない時代になりました。二〇二〇年に改訂が予定されている学習指導要領の小学校課程においては英語の教科化などと共に、プログラミング教育が必修化されます。プログラミング教育はSTEM(科学・技術・工学・数学の略)教育とも呼ばれ、様々な教科にまたがる内容を横断的に学習することが出来る教育と言われています。これを受け、二〇一八年から各学校の裁量で試験的に実施が始まる中、駿台甲府小学校では駿台電子情報&ビジネス専門学校と連携し、二〇一六年度からすでに先行実施しています。プログラミングは命令が書かれたプログラムを配置するビジュアルプログラミングが採用されており、各種センサーを搭載した車型ロボットにプログラムを転送して動作させています。iPadとパソコン教室のPCに導入されており、授業や授業内クラブで既に使用しています。

六月二十四日(土)の公開授業で一



このように子どもたちはプログラミングの仕組みや方法といったスキルを学ぶのは勿論ですが、プログラミングを通して知識や経験を活用する力、問題解決力、コミュニケーション力を高めることが出来るものと思われま

一般向けにも授業を行いました。多くの方が見学に訪れ、関心の高さが伺えます。授業では、三メートル走行して停止するという課題をグループに与えました。すると子どもたちはメジャーを取り出し、まずはコースを作り出しました。次に簡単なプログラムを作成し、モーターの回転数とプログラムのループ(繰り返し)回数を変えながら、移動距離を測り、表やグラフにまとめていきました。そして一メートル進むために必要なデータを作り出しました。そこから三メートル進むために必要な数値を計算で求め、データを入力し、実際に走行させて微調整を加えながら、最終的に課題をクリアしました。プログラムの組み方は様々でももちろん動き方も様々です。高速で走るものや、走って止まってを繰り返しながら走行するものもあり、課題をクリアしたグループは互いのプログラムを比較しました。そうやって新しいスキルを獲得していきながら自然と授業が展開していきま

中

中学校 内藤 伯哉

ICTの発展により、様々なものが便利になりました。教育現場で活用しない手はありません。中学では、iPad、サーフェイス、電子黒板を活用中しています。教科書にはない情報(動画や画像)の提示、調べ学習や理科の実験など様々な場面で助けられています。今まで、顕微鏡を使った実験の時、生徒がいいものを見つけたら「〇〇さん、いいもの発見!みんな見において」と群れを作らせていました。しかし、タブレットで写真を撮り、テレビに写すだけで、クラス全員で共有できます。また、教科書にはない発展的な内容も効率よく扱うことができます。四人に一台iPadを渡して、調べ学習により様々な情報を得られます。全部やらせる時間はありませんが、班別に分担すれば、発表で共有できます。教科の内容以外に、わかりやすくまとめる力・伝える力なども身につきます。教科ごとに温度差はありますが、中学は今、この段階で試行錯誤を重ねています。現在、タブレット一人一台が検討されており、これが実現すれば、アプリを駆使し、全員の考えを把握し、共有できます。どう間違えたのか、全員で考えることもできます。挙げればきりがありません。また、生徒の中には、教員よりも機器に精通した者もいます。プライドを捨て、こうした生徒から学ぶ勇気も必要です。ICTの可能性は無限であり、教員の腕の見せ所はこれまでとは違った場面にあると実感しています。

高

高校 酒井竜次

高校2年の「現代文」の授業は、昨年度から「ペアワーク」や「グループワーク」を取り入れていきます。これまで誰か1人が担当していた音読を、複数で担当して読むようにし、クラス全員が少しでも音読の機会を得られるようにしました。また、語句の意味調べも分担して進めます。全て自分で調べることも大事ですが、調べたものを他人と共有することも同様に大切だと考え、分担制にしました。いずれも生徒たちの授業への「参加度」を高めることが狙いです。ワークだけでなく、「グループディスカッション」を取り入れることもあります。抽象度の高い問いに対しては、グループで協働して解決にこぎつけます。これにより、多少難解な問いにおいても、とり残される生徒をゼロに近づけることが期待できます。文系クラスではこの他に「演習」の授業で「発表」にも取り組んでいます。



2年H組のディスカッション



2年I組の意味調べ

# この夏一番熱い野球!

高校 奥山 昭隆

先日行われました、春季関東地区高校野球山梨県大会では決勝で敗れてしまったものの、準優勝という結果で関東大会に出場することができました。

初戦で前橋育英(群馬一位)に〇―一で敗れてしまいました。この悔しさを晴らすべく、練習に取り組んでいきます。敗戦した試合での課題はもちろん、勝利した試合の中でも足りない部分は多くあります。少しでも課題を減らし、毎日少しでもレベルアップをして夏に挑みたいと思います。

春季大会では大会を通しての熱いご声援をありがとうございました。多くの方々の支えがあって活動できています。全国高校野球選手権山梨大会でも引き続きよろしくお願ひします。

## 選手を代表して花輪淳主将に聞く

### ○新チームの発足後に取り組んだこと

まずは野球をすることよりも整理整頓をしっかりとすることや道具の管理を徹底することから始めました。こういったことの全てが野球に繋がると考えて取り組んでいます。「積小為大」をスローガンとして小さなことからコツコツと積み重ねてきました。

### ○オフシーズンに取り組んだこと

チーム全体として食事をしっかりと摂ることや、ウエイトトレーニングでの身体作りをテーマとして取り組みました。また、バットを多く振ることで

打撃力の向上にも取り組みました。

### ○春季大会後に取り組んだこと

県予選や関東大会でもミスが多く出ました。こういったミスを減らさなくては接戦で勝ちきることができません。練習から自分たちにプレッシャーをかけてミスを減らせるように取り組んでいます。

### ○この夏に向けての意気込み

「甲子園で校歌を歌う」を目標に入学後から取り組んできました。春は準優勝で関東大会に出場できましたが、夏は優勝しなければ次の舞台で戦うことができません。この目標を達成するためにチーム一丸となつて、一戦一戦に全力で挑んでいきたいと思います。

## 小さなことこそ大切に

中学校 小高 淳

『県大会出場』 県内の多くの中学校野球部が目標としていることだと思えます。本校もこれを目指して日々活動しています。

しかし、私が初めて野球部の顧問になった二〇〇五年。公式戦では創部以来未勝利、練習試合でも勝てない部で



した。そこでまず取り組んだのは、部活への姿勢を変えることです。練習着の着用、道具の整理整頓、礼儀・挨拶、掛け声の大きさなどです。こうした細かいことができるようになると、雰囲気も変わり、県大会に迫る成績を毎年修められるようになりました。

今年、三年ぶりに中学に戻り、野球部の部室を覗いたところ…。今回も意識改革からのスタートです。そんなとき、ふと高校野球部のボール置場が目に入りました。そこには今までに見たことのない光景がありました。ボールがケースの中に整然と並んでいるのです。一ケース一五〇個が、出荷されるサクランボのように綺麗に並べられています。練習中の道具も整頓され、選手たちはグラウンド内に常に駆け足。こうしたことが浸透している高校野球部。強くなるのも当然な気がします。

中学野球部も、高校野球部を見習って、細かいことに気をつけるようにしています。その甲斐あってか、今夏、三度目の県総体出場を果たしました。今の目標は『県大会で勝つ』です。

## 知のスポーツ、将棋・囲碁も熱い!

小学校 長澤宏治

駿小では開校当初から授業の中で、将棋・囲碁を行っています。勝ち負けを争うものですが、その過程で挨拶や礼儀作法を学びます。また、指し手を考えることによって「思考力」や「集中力」が身に付きます。

ここまで読むと、堅いイメージですが、授業を覗いてみると、子どもたち

は対局を心待ちにして、目を輝かせて学んでいます。低学年のうちから将棋・囲碁を学ぶことで興味を深め、校外で行われている大会にも積極的に参加をする児童の姿も多く見られます。



七月九日に行われた第十四回文部科学大臣杯小中学校囲碁団体戦山梨県大会では、五年生の松下寛明君、坂本竜君、清水捷映君が優勝し二年連続で全国大会に出場します。

将棋は、現在藤井四段の活躍により、メディアに多く取り扱われ、将棋ブームの到来を予感させます。ただ流行していることをテレビで見ただけでなく、実際に将棋ができることで、より身近なものとして楽しむことができるのではないのでしょうか。「僕は昨日お父さんに勝ったから二段くらいかな。」などと嬉しそうに話をしている児童もいます。

子どもたちにとって、実際に相手と対峙する将棋・囲碁はテレビゲームとは違った刺激となるはず。刺激を受けることで興味をもち、視野を広げるといふ意味でも、将棋・囲碁の時間は有意義なものであり、これからは様々な刺激を受けながら、楽しく学んでいってほしいです。